

実施報告書

1. 確認事項等

施設番号	
施設名	北葛西おひさま保育園
施設所在地	江戸川区北葛西4-3-23
法人名	社会福祉法人えどがわ
活動期間	令和 7 年 4 月 から 令和 8 年 3 月
活動内容の公表	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。
	公表したホームページ等のURL

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	音					
実施回数・期間 (注2)	一年を通して、月4回程度					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
	人	22人	人	人	人	人
活動内容 (注3)	音の出る玩具から入り、子どもたちの様子をみながら、音に関する遊びを増やしていった。体操で体を動かしたり、リトミックで音を聞きながら体を動かし、体幹を鍛えたり、楽器遊びも子どもものやりたいように慣らし、行ってきた。					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/> グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。 ※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 乳幼児の関わりが持てるように、一緒にリトミックを行ない、異年齢児の刺激をもらいながら行ってきた。保育士も一緒に言いながら、補助を行い、出来た時の満足感を感じられるようにしてきた。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。 ※記録をどのように行ったか 子供たちの言葉をメモで記録するとともに、活動の様子をタブレットを用いて写真で記録した。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。 ※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 子供たちが音を聞く事で、興味を持って体を動かしたり、楽器を鳴らしたり出来るように保育室には常に楽器を置いたり、ピアノを使って体を動かせるようにしてきた。保育者は子どもの主体性を大切にしながら、活動の様子を撮影し、振り返りを行った。					
	※振り返りの実施方法 午睡時間や全体の会議を利用し、撮影した写真を見ながら、他クラスの担任等も交え、保育者同士で振り返りを行った。記録をもとに、子供たち一人ひとりが何に関心を持ち、どのようなアイデアを持っていたかについて理解を深めた。					
	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。 ※教諭や保護者等への共有方法 保護者に対しては、園だよりをもって探究活動の様子を周知した。加えて、園のホームページにおいても活動内容を随時掲載した。					
	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。 ※継続的な実施のための工夫 活動中の子供たちの反応や興味関心に着目し、子供の言葉やアイデアを取り入れながら環境構成や活動内容を適宜工夫し、活動を発展させた。					

(注1) 活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

(注2) 「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

(注3) 「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0782
施設名	北葛西おひさま保育園
施設所在地	江戸川区北葛西4-3-23
法人名	社会福祉法人えどがわ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身近にある『音』をテーマに働く車の音、音の出る玩具や絵本なども楽しむ姿が多かった為、継続的に活動に取り入れいろいろな音に興味を持てるようにしてきた。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

救急車、消防車、パトカーなどが好きな子が多かった為、『音』をテーマにする事で身近な音に興味を持てると思い、このテーマにした。また、音の出る絵本なども入園当初から人気だった為、もっといろいろなことに興味を持てるようにと、保育士が展開をしていった。

2. 活動スケジュール

毎月4回以上は行っていこうとクラスで話をして、継続的に取り組めるようにしてきた。教育TV等で流れている音楽で体を動かしたり、リトミックも少しずつ行っていき、音に興味を持ちながらも、体を使って楽しむ子どもと一緒にやってきた。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

給食準備前に、ほふく室でリトミックを行ったり、ひろばが使える時には、活動のあとに全体で、リトミックをして体を動かしてきた。また、楽器をお部屋に置いて置いたり、マラカスを購入し、保育士の歌に合わせて鳴らして楽しんだ。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・リトミック
- ・楽器遊び（鈴、マラカス、タンバリン、カスタネット）
- ・手遊び
- ・季節の歌
- ・音の出る玩具の提供

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

春先の子ども達は、不思議そうに眺めているだけだったが、徐々に大人の動きを真似て

身体を動かすようになった。徐々に次第に音を聞いただけでその音が何の動きかを覚え、自ら体を動かすようになった。

リトミックを一年通して、体幹がしっかりと身につく子どもが少なくなったり、転んでも手をつけるようになった。

4月の保護者会で一年を通して、リトミックや楽器遊び等を取り入れた保育を行っていくと伝えた。実際に前期の保護者会では保護者と後期の保護者会では子どもたちと一緒にリトミックを行った。その際、リトミックが子ども達にどのような影響を与えるかを説明しながら、保護者会に取り入れた。運動会では、リトミックにちなみ、動物関連のダンスを取り入れたり、一緒にあそぼう会では、保護者と一緒に「おもちゃのチャチャ」に合わせて楽器遊びを取り入れた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

リトミックを一年通して、体幹がしっかりと身につく子どもが少なくなったり、転んでも手をつけるようになった。ぶつかりそうになった時に友達を避けれるようになったり、バランス感覚が養われ巧技台遊びや平均台でもこなせるのものが増えてきた。

楽器遊びでは、楽しい雰囲気子ども達が興味を持って遊んでいる。子どもたちなりに歌や音楽をしっかり聞いて、リズムに合わせて鳴らせるようになった。

実施報告書

1. 確認事項等

施設番号	66-0782		
施設名	北葛西おひさま保育園		
施設所在地	江戸川区北葛西4-3-23		
法人名	社会福祉法人えどがわ		
活動期間	令和 7 年 11 月	から	令和 8 年 3 月
活動内容の公表	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。		
	公表したホームページ等のURL	https://edogawa-ohisama.or.jp/kitakasai-ohisama/blog/20260213-113846	

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	絵本					
実施回数・期間 (注2)	一年間					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
	人	人	24人	人	人	人
活動内容 (注3)	<p>「パンどろぼう」の絵本では小麦粉粘土を行いパン作りに触れ、「14ひきのせんたく」では洗濯ごっこ、「ねこのピート」では劇ごっこを取り入れ絵本の世界を知り、感触遊びや表現遊びを実施した。</p>					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/> グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。 ※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 少人数のグループで活動を行うことで、活動時間を十分にとることができた。 お店の装飾や洗濯ばさみなどの小道具を準備することでなりきりながら遊びを広げることができた。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。 ※記録をどのように行ったか 携帯電話で写真と動画記録を行った。子ども達のやり取りや遊び方、表情等は日誌や連絡帳へ記載した。					
	<input type="checkbox"/> 乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。 ※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 子ども達が自由に道具を使えるよう、十分な数を準備した。イメージや感じたことを言葉にできるよう保育者も遊びに入りながら言葉掛けを行った。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。 ※振り返りの実施方法 子供たちの午睡の時間、降園後の時間等を活用し、撮影した写真や映像を見ながら、保育者同士で振り返りを行った。記録をもとに、子供たち一人ひとりが何に関心を持っているかを話し合い、保育室の絵本の入れ替えを行った。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。 ※教諭や保護者等への共有方法 日々の活動の配信とHPへの掲載を行い共有を行った。また、小麦粉粘土で作ったパンは持ち帰りができるようにした。劇遊びは保護者に観賞する機会を設けた。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。 ※継続的な実施のための工夫 日々の活動の中で子ども達が興味関心がある絵本を題材に、担任で話し合いながら活動内容を決めた。					

(注1) 活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

(注2) 「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

(注3) 「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0782
施設名	北葛西おひさま保育園
施設所在地	江戸川区北葛西4-3-23
法人名	社会福祉法人えどがわ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

絵本

<テーマの設定理由>

・子どもたちのことばの世界を広げる事で、自分の気持ちを表現し、友達の気持ちを理解して、より伸び伸びと表現活動ができるようになるために、このテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

計2回（パンを作った回数）

計1回（タオルを使つての活動）

絵本を読むのは、日々の活動の中で行っている。

計6回（劇遊び：練習、保護者への発表を含めた回数）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（パン製作）

- ・小麦粉
- ・油、塩
- ・絵本
- ・製作シート

（タオル）

- ・タオル
- ・せんたくばさみ
- ・すずらんテープ
- ・たらい

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・パン製作
- ・タオルで洗濯遊び
- ・日々の保育の中での読み聞かせ
- ・季節の絵本の準備
- ・劇遊び

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・材料を一つずつ見せながら触れて視覚と感覚で感じられるようにした。こねたり、ちぎったりしながらハートやピザなど思い思いのパンを作った。その後、公園で拾い集めたどんぐりをトッピングし、ままごとコーナーのオーブンで焼いて、子ども達とは完成。こちらで、パンに色を塗ってより本物に寄せられるようにした。

・指先を使って、「おちないように」と丁寧に洗濯ばさみをつけた。絵本に出てきたようにタオルが並んでいる様子を見て、「いっしょだね、ならんだ!」と喜んでた。絵本に出てくる言葉で伝えたり、絵本と同じ場面になると喜ぶ姿があり、想像を膨らましなが洗濯ごっこを楽しんでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子ども達が日々の読み聞かせを通して興味関心を持った絵本を題材にすることで、参加意欲を引き出す事ができた。パン作りでは、午睡中に焼き色を付け、展示することでパンの焼き上がりのワクワク感を体感できた。また、絵本で見て知った世界を感触遊びを通して体験することで、感触や気持ちを言葉で表現する姿が多く見られた。劇ごっこでは、色や気持ちを表現する言葉を伝え表現の幅を広げられるようにした。乗り物や果物、野菜等の図鑑にも興味を示し始めてるので、今後は学びを深めていけるような活動内容を取り入れていく。

実施報告書

1. 確認事項等

施設番号	66-0782		
施設名	北葛西おひさま保育園		
施設所在地	〒134-0081 江戸川区北葛西4-3-23		
法人名	社会福祉法人えどがわ		
活動期間	令和 6 年 9 月	から	令和 7 年 3 月
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。	
		公表したホームページ等のURL	https://edogawa-ohisama.or.jp/kitakasai-ohisama/blog/

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	構成遊び					
実施回数・期間 (注2)	令和6年9月～令和7年3月/日々の自由遊びで行った					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
	0 人	0 人	0 人	26 人	0 人	0 人
活動内容 (注3)	自分でイメージしたものを作る事や偶然出来た形を楽しむ。保育士や他児とのやりとりのなかで、集中力や個々の表現力を高めると共に子ども達の興味関心を高めていく。					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/>	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。 ※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 他児が作っている作品を「作りたい」と言った時には、「作り方を知っている友達に教えてもらおう」と声を掛け、児同士の関わりを促した。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。 ※記録をどのように行ったか 作品の製作途中の様子や完成した作品、作った児の表情の写真を撮り、記録をした。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。 ※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 構成遊びで使うブロックやカプラなどを、児の手に取りやすい場所に配置し、児が遊びたいと思った時にすぐ遊び始められる環境を設定した。児の作った作品に肯定的な声を掛け、また遊びたいと思える関わりをする。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。 ※振り返りの実施方法 記録した写真を児と一緒に見て、作った作品を振り返った。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。 ※教諭や保護者等への共有方法 月に一度職員が集まる機会を設け、探究活動の報告・共有をした。保護者には、保護者会や保育園のブログを通して活動の共有をした。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。 ※継続的な実施のための工夫 児から「もっと大きくしたい」「ムカデをつくりたい」等のやりたい事が出てきた時に「どうすれば大きくなるかな?」「ムカデはどんな形だったかな?」等、どうやってイメージしたものに近づけられるかを一緒に考えていった。				

(注1) 活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

(注2) 「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

(注3) 「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0782
施設名	北葛西おひさま保育園
施設所在地	江戸川区北葛西4-3-23
法人名	社会福祉法人えどがわ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

構成遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
保育室や園内の広さを生かし、「構成遊び」をテーマとした。自分でイメージしたものを形にすることを楽しむ姿が増えてきている様子を受け、イメージしたものを作る事や偶然出来た形を楽しみながら、集中力や個々の表現力を高めると共に子ども達の興味関心を深める。

2. 活動スケジュール

令和6年9月～令和7年3月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
複数の種類のブロック(カーペンターブロック、デュプロブロック、レゴブロック、カプラ、アーテック等)を、保育室の手に取りやすい位置に配置した。また広い保育室を活かして、床を広く使って作品を作り上げられるように場所を空け、遊びを広げられるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

日々の自由遊びの中で、ブロックやカプラなどを用いた構成遊びを広げていった。保育室で遊び始めた当初は、1種類のブロックで偶然できた形を楽しんでいる様子があったが、日々遊びを広げる中で徐々に作品が大きくなりダイナミックになっていった。また偶然出来た形だけではなく、職員や他児との対話の中で作りたいと思った形を作り上げようとする姿も見られた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

他児が作っている作品を見て「あれ作ってみたい」と言い、友だち同士で作り方を教え合う姿が見られた。複数種類のブロックを組み合わせさせて使っても良い事を伝えると、保育室の床をダイナミックに使って大きな町や動物園を作っていた。友だち同士で言葉を交わし、作りたい作品のイメージを共有していた。子どもから「もっと大きくしたい」「この動物を作りたい」と言う声があがった時は、職員から「どうしたらできるかな?」と一緒に考える姿勢と問いを投げ掛けた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

自由遊びの中で構成遊びに着目していくことで、子どもの想像力や集中力、表現力の育ちをより感じる事が出来た。作品を作って他児や職員と一緒に喜ぶことで、達成感、楽しさ等を感じ、また遊びたいと思う気持ちを育むことが出来たと思う。構成遊びでは、一人で作品を作るのはもちろんのこと、他児や職員と一緒に作品を作り上げる事の楽しみも感じられる。一緒に作品を作り上げる中で、言葉でイメージを伝え合う事、思いがすれ違っても解決しようとする気持ち等の人間関係も育っていると感じた。

実施報告書

1. 確認事項等

施設番号			
施設名	北葛西おひさま保育園		
施設所在地	〒134-0081東京都江戸川区北葛西4丁目3-23		
法人名	社会福祉法人えどがわ		
活動期間	令和	7	年 9 月 から 令和 8 年 3 月
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。	
		公表したホームページ等のURL	https://edogawa-ohisama.or.jp/kitakasai-ohisama/blog

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	粘土					
実施回数・期間 (注2)	合計10回（内訳：10月1回、1月2回、2月4回、3月3回）/令和7年9月～令和8年3月末まで					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
		人	人	人	25人	人
活動内容 (注3)	材料を使用して一から紙粘土を作った。素材を感じたり、土粘土にも触れ、それぞれの特性を楽しみながら探求した。最後には、探求活動した表現方法を使ってお皿作りをした。					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/>	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。				
		※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか グループに分けて活動を行い、それぞれで一つの作品を作る環境を提供した。保育者が間に入る事で、友達とテーマを決め、分担して粘土で作品を作り友達と見せ合う姿に繋がった。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。				
		※記録をどのように行ったか 活動の様子をスマートフォンを用いて写真にて記録した。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。				
		※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 子供たちが自分のイメージした物を作り込めるように声かけを工夫した。また、興味を示す事が出来るような感覚遊びを取り入れた。また、保育者は子供の主体性をもとに活動を展開し、見守ることを心掛けた。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。				
		※振り返りの実施方法 子供たちの午睡の時間や職員間での会議を活用し活動報告を伝えた。その中で他クラスの担任等も交え、保育者同士で振り返りを行った。その結果、子供たち一人ひとりが何に関心を持ち、どのように発展していくと良いのかを探る事ができた。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。				
		※教諭や保護者等への共有方法 保護者に対しては、毎日のおたよりをもって探究活動の様子を周知した。加えて、園のホームページにおいても活動内容を随時掲載した。				
<input checked="" type="checkbox"/>	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。					
	※継続的な実施のための工夫 活動中の子供たちの反応や興味関心に着目し、子供の言葉やアイデアを取り入れながら環境構成や活動内容を適宜工夫し、活動を発展させた。					

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0782
施設名	北葛西おひさま保育園
施設所在地	江戸川区北葛西4-3-23
法人名	社会福祉法人えどがわ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

粘土

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
感触遊びが好きな姿から、「粘土」をテーマとして設定する。粘土は遊びの中でも楽しんでいる事から、素材が変わると感触や遊びに変化があるのか、子どもたちの興味関心を更に深めるために行う。

2. 活動スケジュール

合計10回

10月1回 紙粘土づくり

1月2回 土粘土

2月4回 土粘土、片栗粉スクイーズ

3月3回 紙粘土、陶器粘土

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・新聞紙
- ・タライ
- ・土粘土
- ・製作シート
- ・陶器粘土
- ・ニス
- ・絵の具
- ・片栗粉
- ・風船
- ・オープンレンジ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

材料を使用して一から紙粘土を作った。素材を感じたり、土粘土にも触れ、それぞれの特性を楽しみながら探求した。最後には、探求活動した表現方法を使ってお皿作りをした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

様々な粘土の感触の違いに興味を示し楽しむ姿が見られた。また、友達とも会話を交わし気付いたことなどを言葉にして伝え合っていた。また、粘土での活動を取り入れた事で、自分で作って表現する姿が増えた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子ども達の気付きから、活動を工夫する事でより子供たちが興味を示し参加する事に繋がった。1から粘土が作れる楽しさや、協力して一つの物を作り上げる達成感など様々な完成の育ちに繋げる事ができた。

実施報告書

1. 確認事項等

施設番号											
施設名	北葛西おひさま保育園										
施設所在地	〒134-0081東京都江戸川区北葛西4丁目3-23										
法人名	社会福祉法人えどがわ										
活動期間	令和	7	年	6	月	から	令和	8	年	3	月
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/> 活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。										
	公表したホームページ等のURL					https://edogawa-ohisama.or.jp/kitakasai-ohisama/blog					

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	海の生き物					
実施回数・期間 (注2)	令和7年6月～令和8年3月 日々の活動の中で行いました。					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
		人	人	人	人	24人
活動内容 (注3)	海の生き物をテーマに、様々な活動に取り組んでいった。夏祭りでは「タコ」をイメージしてお神輿を作ったり、廃材を使って海の生き物を作って保育室に飾りました。魚の解体ショーを見た後は、クレヨンや絵の具を使って魚を描いてみたりして、卒園遠足では実際の魚を見に水族館に行きました。「水族館を作りたい!」と言って、みんなで保育室を水族館に作り上げ、他クラスの友達を招待しました。					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/> グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。 ※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 役割を分担しながら協力して作ったり、水族館を作った後は他のクラスを招待して、子ども達で異年齢児に教えてあげたり説明したりと交流を持てるよう促していった。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。 ※記録をどのように行ったか 子ども達の意見を取り入れながらクラスで話し合っ進めていった。活動の様子を園の携帯で写真を撮り、記録した。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。 ※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 廃材やいろいろな素材など作る為の材料を揃えて子ども達が自分で選んで作ることが出来るよう環境を整えていった。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。 ※振り返りの実施方法 子ども達の午睡の時間や空いた時間を利用して、子ども達の作成の様子や作った作品について担任間や他クラスの保育士と話したりしながら一人ひとりの子どもへの理解を深めていった。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。 ※教諭や保護者等への共有方法 ・保護者に対しては、クラスのおたよりや掲示を利用して探究活動の様子を伝えていった。ブログや作品を飾ることで子ども達の取り組みを随時掲載していった。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。 ※継続的な実施のための工夫 子ども達の興味や反応を見て担任間で話し合い、活動が発展するよう子ども達に誘い掛けていたり、活動の中でいろいろな視点から取り組むことが出来るよう工夫していった。					

(注1) 活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

(注2) 「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

(注3) 「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0782
施設名	北葛西おひさま保育園
施設所在地	江戸川区北葛西4-3-23
法人名	社会福祉法人えどがわ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

海の生き物

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

水族館や動物園が近くにあり、休みの日に家族で行ったりする児が多い。子ども達の遊びの中で一緒に図鑑を見ながら会話が盛り上がったりと興味をもつ姿が見られていたので、海の生き物をテーマに様々な活動を通して興味関心をさらに深める。

2. 活動スケジュール

6月 タコの神輿作り 7月・8月 廃材製作(海の生き物)
12月 発表会(海賊や海をテーマにした題材)
1月 魚の解体ショー・魚を描く(クレヨン・絵の具)
2月 水族館遠足・版画制作・廃材製作(海の生き物) 3月 水族館作り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・絵の具 ・スズランテープ ・段ボール
- ・クレヨン ・画用紙 ・模造紙
- ・マジック ・カラーポリ袋 ・ちびレゴ
- ・廃材 ・各種テープ ・ラキュー 他

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

夏祭りでは「タコ」をイメージしてお神輿を作ったり、廃材を使って海の生き物を作って保育室や玄関ホールに飾った。発表会でも海をテーマにし「ヨーホーたからさがし」を行った。魚の解体ショーを見た後は、クレヨンや絵の具を使って魚を描き、卒園遠足では実際の魚を見に水族館に行った。「水族館を作りたい!」と子ども達から声上がり、版画や廃材、折り紙、様々な素材を使用し保育室を水族館に作り上げ、他クラスの友達を招待した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

図鑑や絵本を見ながら真似して描いたり、様々な材料を使用しイメージした魚を作り上げていた。子ども同士で作り方を聞いたり完成したものを発表したりする中で、関わりが深まっていた。個々の様子に合わせ声を掛け援助をしたり、作った物を飾る等環境を整えた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

海の生き物に興味を持ち、自分なりにイメージを膨らませて表現していた。色選びや飾り付けに個性が見られ、色や大きさ形など細かい部分まで着眼し表現しようとする姿が見られた。友達同士で見せ合い、模倣して作ったりやり取りを楽しんでいた。海の生き物に対する知識や経験の差があり、図鑑や写真掲示の大切さを感じた。興味を持った子は集中力が持続するため、環境設定の工夫が意欲に繋がると感じた。水族館製作では友達と役割を分担し、協力して一つの物を作り上げる達成感や楽しさを味わう事が出来た。